



滋賀の友人から秋のたよりが…

画 田中未年子

編集後記

訂 正

「闘争」前篇 (一〇)

田中 豊蔵

第三中隊第一小隊

志摩 肇

いちりんの花  
—福田弘子八十年の軌跡より—



(3) 1998年11月1日

人入ってきた。弘ちゃんは「頼むよ」といってかなり高い窓をよじ登つて教室から外へ逃げた。授業は中断して蜂の巣をついたようになつた。中立壳警察署の応援を求めて特高と警官が学校中をしらみつぶしに捜索したが、すでに逃げていて見つからなかつた。その頃本人は新京極の映画館に逃げ込み夜になるまで時間をつぶし、その後二、三か月地下に潜る生活を送ることとなつた。

この頃、一度睨まれた人物は二人とかグループで下宿すると怪しまれるので、偽装同棲をして身を隠すことがよく行われた。たぶん弘ちゃんも偽装同棲して地下に潜っていたのではないでしょうが。

この頃、一度睨まれた人物は二  
人とかグループで下宿すると怪し  
まれるので、偽装同棲をして身を  
隠すことがよく行われた。たぶん  
弘ちゃんも偽装同棲して地下に  
潜っていたのではないでしょう  
か。

行き同室の後輩に服を持って行くと言つたら、彼女は泣いて実は警察や特高の人が桑折の中身を調べ封印をしていったということであつた。そこで私は自分の新しいまだ着ていない服を持って行くことにした。当日、私は御所の指定された場所へ出向いた。ところがその時、私の後から寮の舍監が二人付けていたことを私はまったく知らなかつた。暫くして歩いてくる弘ちゃんに出逢つた。非常にやつれて別人のようだつた。

「うどんでも食べる？」と言つたら「時間がないので」と言うのでも、御所の横の美味しいおかき屋さんでおかきをいっぱい買って弘ちゃんにあげた。その時、弘ちゃんはほんとうに嬉しそうな顔をした。今ではつきりと憶えていれる。弘ちゃんと別れて寮へ帰つたら、舍監に呼び出されて当日の行動について夜中まで詰問されたが、偶然御所で出逢つたと言いつ張つた。当日、弘ちゃんが「毎月集め献金していた五〇銭を私に替わりに集めて京大の柿本という人に渡してほしい」と言つたので私が電話をかけてきて私が電話が集めることにした。

二回目は喫茶店で弘ちゃんに逢つたが、この時は比較的元気な様子だった。以後、時々女性から寮に電話がかかってきて私が電話

に行き同室の後輩に服を持って行くと言つたら、彼女は泣いて実は警察や特高の人が桑折の中身を調べ封印をしていったということであつた。そこで私は自分の新しいまだ着ていらない服を持って行くことにした。当日、私は御所の指定された場所へ出向いた。ところがその時、私の後から寮の舎監が二人付けていたことを私はまったく知らなかつた。暫くして歩いてくる弘ちゃんに出逢つた。非常にやつれて別人のようだつた。

「あなたは家になりますか？」

なことは下なともあつた。

「あなたは家になりますか？」

とも、自分をさない、万も話さない、し、実は……

暫くしたた

に出ると柿本に代わり日時と場所を指定してきた。主に丸善書店や喫茶店などで逢つてお金を渡された。その時ビラなどを渡されたこともあった。柿本は最初いきなり「あなたは家庭を捨てることがでりますか」と言い、また「この様なことは下から洩れることはあつても、自分たちからは絶対に洩らさない、万一の場合には自殺してでも話さない」とも言つた。(しかし、実は……)

暫くしたある日、早朝に特高が寮に踏み込んできた。寮の舍監が部屋まで同行してきたが、その時舍監は障子を開けようとした特高に「待ちなさい」と言つて、障子を背にし身を挺して障子を開けさせず、時間をかせいでくれた。私は服に着替えようとした時、ふと二、三日前に柿本から預かつた大切な書類が枕の下にあるのを思い出し、足をとんとんとすると同室の後輩がそれに気づき、とっさに洗面器に洗面用具とその書類を入れて少し離れたところにある洗面所に顔を洗いに出かけようとした。ところが外にいる特高に呼び止められた。私は一瞬、万事休すと思つたが、先ほどの舍監が「その子は関係ありません。早く顔を洗いに行きなさい」と言つて洗面所へ行かせた。その後輩は後で

私は中立売署に連行され根ほり葉ほり問い合わせられたが、献金していたメンバーの名前も黙つていた。すると柿本の写真を見せながら「知つているだろう。この柿本がすべて白状した」と言い、同女専以外に京女専のことでもすべて知つていた。私は柿本に対し非常に腹がたつた。警察でトイレに行きたいと言つたら、若い刑事が監視のため付いてきて「川合弘子を知つてゐるか」と言うので黙つていると「川合弘子もここへ入つてゐるぞ」と教えてくれた。それから私は二十二、三日拘束されたが、肺炎を起こしたため寮へ戻された。弘ちゃんは退学処分になりました。その後検事局送りになつた。

一〇年前、弘ちゃんが突然クラス会へ出てきて「皆様に大変ご迷惑をおかけし、本来なら出てこられるはずがないのですが、懐かしくて皆様お逢いしたくて」といつて参加した。それから数年後、クラブ会で長野の善光寺へ行つた時、私にそつと「その節はお世話をになりました」と言つて過去を詫びていた。

## 暗い時間の中で

前田 直子

それは吾々の年齢になれば当然のことかも知れないのでですが、予期しない旧友の死に今さらながら愕然としてしました。

何ということか！惜しい人を失つて慌てて悔んでいます。

あれはもう、六〇年も昔のことになります。女子学連（とでも呼ぶべきなのでしょう）の代表者会議で初めてお目にかかるたと記憶していますが、もうその頃、あなたは地下運動に入つていらしたのか、とにかくお名前とその活動を知ったのは多分この時でしたでしょう。私はどの専門学校も気に入らなくて、当時自由な美術研究所に通っていました。そこで美術学校（絵専といつていました。今芸大です）の活動家と知り合つてのことだったのでしょうか。そしてあなたと直にお逢いしたのは多分、私も同じ地下に潜つてからではなかつたでしようか。

夜、中京の町角で連絡をとり、紹介されたあなたはお姉さまのように大人びて見えました。にこにこと健康そうで、頼もしかつたのを覚えています。そのうち人に言付けてあなたは私に和服のローブ色の冬コートを届けてくださいま

した。家出娘が貧相に見えてスペイ（特高のこと）に捕まつてはいけないとの配慮からだたと思ひます。髪も束ねてコートを着て漸く大人びた変装に自分で満足したのを覚えています。

その後のあなたを私は詳しく知りません。各々仕事が違つていたのでしよう。やがて私は検挙され、保護室に一ヶ月以上放り込まれてテロを受けました。たつた一

八歳くらいの娘を大の男の特高課員六名くらいが竹刀でぶちのめすのです。死んだほうがいいと思いました。たかが市販されていても政府の気に入らない本を読んだくらいでこの有様です。この国はそのように遅れた、野蛮国だったのですね。実に野卑極まる輩でした。私がけいれんを起こして氣を失つて倒れたもので、漸く彼らは私を警察医にまかせて手を引いたようでした。その時保護室のはめ板にはつきりと中国革命を守れ、世界のソビエートロシヤを守れ、世界のプロレタリアートよ団結せよ、等々のスローガンの終りに、川合弘ちゃん頑張れ！としつかりと彫られてあつたのが忘れられません。学連のことは完全に守られ、特高の追及は一度もこれに触れませんでした。

次にあなたと逢つたのは何ど、

それでもここにこと懶々といろんなお話をしてくださいました。あなたのお知り合いで、私の夫とも知り合いのご子息の下宿のお世話を二人でして、思わぬ成り行きに二人で悩んだことも、今は懐かしい思い出になりました。

枚方へいらしてからは年賀状だけのやりとりになりました。けれど枚方へはいつでも出かけられる

という安心感がありました。それですっかりごぶさたしてしまいました。でもある時、内海繁氏の遺歌集を送つてくださいました。

段々と昔のお仲間も亡くなり、いつも弘ちゃんといつしょにお墓参りもしたいと思いながら、私も七〇歳代を四回の手術で過ごすという有様で、果たせませんでした。

不意に知られた訃報、残念でたまりません。程経てご子息様から丁寧なお便りを受け取り、それでもあなたのこと書くといふことは辛く、悲しいことでなかなかペンをとれませんでした。

いずれそちらへも私たち参りま

した。わたしの住居の近くに御兄上のご家族と同居していらして、再会を喜びあつたことでした。当時あなたは乳がんの手術を受けられ、病院通いの毎日でしたね。そ

れでもここにこと懶々といろんなお話をしてくださいました。あなたのお知り合いで、私の夫とも知り合いのご子息の下宿のお世話を二人でして、思わぬ成り行きに二人で悩んだことも、今は懐かしい思い出になりました。

枚方へいらしてからは年賀状だけのやりとりになりました。けれど枚方へはいつでも出かけられる

という安心感がありました。それですっかりごぶさたしてしまいました。でもある時、内海繁氏の遺歌集を送つてくださいました。

叔母を送る

七月一四日、訃報を聞いてわれもまたかく老いたきと友と言いし叔母なりき

川合 葉子

（学生時代の友人）

す。またお逢いしていろいろお話をいたしましょう。かけがえのない弘子さん。強く勇敢でやさしかつたあなた。今もにこにことほほえんでいらっしゃるのでしよう。

それまで僅かの時間です。ではまた。

（学生時代の友人）

叔母を病室に見舞つたときの会話を思い出してマルクスは間違つとらんと言いいし叔母のこだわりを

今朝臨終を迎えた

川合 葉子

叔母を病室に見舞つたときの会話を思い出してマルクスは間違つとらんと言いいし叔母のこだわりを

いま継ぎたしと思う

反戦を唱えて囚われし日々のあり

叔母の青春は輝きて見ゆ

叔母は病室で赤旗を購読しアエラを読み続けていた病みてなお社会をひたと見つめいしその瞳のおくは

人にやさしかり

（甥一良の妻）

第三中隊第一小隊

一八月一五日を前に思うこと

志摩肇

「第三中隊第一小隊吉川、林先生に用事」。ときは一九四四（昭和

（一九）年初夏、ところは深草の京都市立第二工業学校（略称二工）で、わがクラスの級長が担任の先生に呼ばれ、職員室に入る挨拶の声が廊下まで聞こえている。

ところで第三中隊とは三年生・第一小隊とは甲組（木材工芸科）のことだが、太平洋戦争激化の時に、中学といえども「いつお召しがあつても」と、すべて「軍隊式」に変わつた中での年次・級名の変更でのことであつた。

すなわち五年生を第一中隊とし、以下四年生を第二中隊、最下級の一年生は第五中隊。また各学年甲・乙・丙の級は、甲組を第一小隊、乙組を第二小隊、丙組を第三小隊としたのである。

\*

我々は太平洋戦争開始の翌年入  
学したが、通常の授業の他「教練」  
が課せられ、学校には予備役の陸  
軍少尉と伍長の教練教官がおり、

戦局の推移に伴い我々は後にこの配属将校の前に一人づつ呼び出され、特別幹部候補生の願書を「親に相談する」間もなく、否応なしにその場で書かされ、もう少し戦争が続いていれば入隊命令がいつもおかしくない状態に追いついてもおかしくない状態に追い

また一年生は徒手、二年生は木銃を手に訓練するが、三年生になると陸軍から払い下げの三八式歩兵銃が当たり、完全軍装で校庭を駆ける上級生の姿は、當時「恰好良く」目に映つたものだった。

それはともかく、我々が現役入隊後志願すれば幹部候補生となり、下士官に昇進する道が作られていたが、このためか深草第一六師団から現役陸軍中尉が「配属」されていった。

彼らから陸軍の歩兵操典に従う訓練を受けねばならなかつた。  
教練は、一般男子が現役入隊後受ける初年兵教育に相当、五年間でほぼその課程を「形だけ」は修了することだつた。

彼らから陸軍の歩兵操典に従う訓練を受けねばならなかつた。

込まれたのであつた

当時の時局は、学校での僅かの学ぶことすら許さず、三年生の一学期が終わるのも待たず国家総動員法による「学徒動員」となり、

徒がそろい、五年生級長が「だから今から玩具科生徒会を行う」と宣言するや否や、一人の四年生が呼ばれて前に出たかと思うと、いきなり呼び出した五年生の往復ビンタがそのほほに飛んだ。

れ、機械場で潜水艦の配電盤部品作りのため、畠違いの旋盤やミーリング操作が終戦まで続いた。

井上電機には我々二工の他、西山光明寺関係の西山専門学校、西山女学校からも学生・生徒が動員されていたが、我々はなんといつても工業学校生、地元軍需工場・それも機械場に配属されたとのこ

ちなみに私の小学校同年の府立三中生は、愛知中島飛行機に親元を離れて動員され、終戦直前の空襲と地震で犠牲者を出しており、これは「ああ紅の血は燃える」の小説にも描かれた。

\*

当時の旧制中学はどこも正に「豆軍隊」で、兵舎の中で行われていたシゴきも当然。それは入学第一週の土曜日の午後の生徒会から目にすることとなつた。

軍隊式」往復ピンタを喰らう事能もあつた。

我々一年生は、何も知らぬまま何事も珍しく入学の喜び覚めやらぬまま出向いた一室には、木材工芸・玩具科の一年から五年の全生

主義の一かけらも学ばぬうち卒業となり、終戦で大混乱の世間に放り出された。

去る五月のある日、我が旧甲組の同窓会が開かれ、実に五二年ぶりに同級生と顔を合わせ当時のよもやま話に花を咲かせたが、驚いたことに同級生四十数名中既に十名が死亡しており、卒業式で別れたまま再び会うこともできぬ学友もある事態となっていた。

我々の年次は「死に損ない」「行き止まり」の年次、一年下から新制高校となり、我々は旧制中学最後の卒業生。後に思いつき大学入学を志したときは受験資格さえなかつた。

また旧制中学（工業学校）卒業とは名ばかり、「学歴あれど学力無く」「工業学校卒と言えど技能無く」で、終戦後大混乱する世間が我々の苦労を待っていた。

また、あの当時何の疑いも持たず、ひたすらに「国のために、天皇陛下のため」と進んだ道が間違いと言われ、「眞実とは、正義とは何か?」「我々は今後いかに生きるべきか?」を深く考えざるを得ず、結果として「平和と民主主義・政治革新」の道に参加した同年生も數知れなかつた。

しかし、我々はまだこうして生き残つてゐるが、沖縄の同年次中

学生は文字通り陸軍部隊にそのまま編入され、米軍との戦いで大半が戦死したと聞く。

終戦後五三年、幸いに日本の国土では戦争は一度も無く、ともかくも平和な毎日を過ごしてきたが、子どもや孫たちが新ガイドラインで米軍の弾よけとして、再び第〇中隊第〇小隊などに組込まれることのないことを願うのである。

一九九八（平成一〇）年八月一日記  
後記

いつもこの時期、戦争と平和に関する手記が募集されていますが、一度応募せねばとの思いだけが先行するまま今日に至りました。

た。

また内容的にも、学徒動員された旧制中学生に関するものは少ないよう見えたので、このようにまとめました。

募集されていた字数からすれば、はるかにオーバーしているのは承知ですが、書きだすとアレもコレもとなつたものの、それでも最小限に抑えたつもりです。

私は調子に乗つて「アイ・アム・クリスチヤン・ジャパンーズ……」  
賀川豊彦先生を知つているか」と申しますと、彼らは、賀川先生のことはよく知つていました。私は仏教徒ですが、彼らを喜ばすためにウソをいいました。彼らは本当のクリスチヤンだと思い「ユウ・アー・ベリー・ナイス」といつて握手を求めました。シドニー・メルボルンに帰つた兵士たちは日本の思い出話をしていることでしょう。

## 前篇（一〇）

田中 豊蔵

# 闘争

## 三、オーストラリア兵士の捕虜

私は、堺港貨物駅に五〇名の兵士が来ていると聞きました。大阪の梅田駅では一〇〇人ほどだそうです。

彼らは、堺港の貨物駅で荷揚げをしていましたが、これの仕事につかされているオーストラリア兵士が何人かいました。それを出してやつて、「プラットホーム・ノー・スマーキング」「ここでは喫むな、ルームで喫みなさい」と言つてやります。兵士は「ギブ・ミー」「サンキュー」

りますと、オーストラリア兵は、「ホースマン、ベリーナイス、ベリーナイス」

りますと、オーストラリア兵は、「ホースマン、ベリーナイス、ベリーナイス」

とほめます。

私は「アーネス・ク

リスチヤン・オーストレイリアン・ミリタリー?」（君たちはクリスチヤンの兵隊だろ）といふと、「イエス、イエス」と言います。

た。

私は調子に乗つて「アイ・アム・クリスチヤン・ジャパンーズ……」  
賀川豊彦先生を知つているか」と申しますと、彼らは、賀川先生のことはよく知つていました。私は仏教徒ですが、彼らを喜ばすためにウソをいいました。彼らは本当のクリスチヤンだと思い「ユウ・

アー・ベリー・ナイス」といつて握手を求めました。シドニー・メルボルンに帰つた兵士たちは日本の思い出話をしていることでしょう。

また、二、三人の兵士が、「ドウ・ユー・ハヴ・ジャパニーズ・シガレツ?」といいます。日本ではタバコは配給で、そう易々と手に入りません。しかし私は「オーライ」と言い、ゴールデンバットを一箱出して、中には七本ほどありました。それを出してやつて、「プラットホーム・ノー・スマーキング」「ここでは喫むな、ルームで喫みなさい」と言つてやります。兵士は「ギブ・ミー」「サンキュー」

## 燎原

サンキュー」と盛んに礼を言いました。私も軍人です。いつ召集令状が来るやらわかりません。捕虜になつた兵士は不びんでなりません。それで「明日また旋盤運搬の仕事でここに来る。他人には言わないでタバコを手に入れてくるから待つていてくれ!」と言つて「グッド・バイ」をして帰りました。

私は、クリスチャンでもないのに「クリスチヤンだ」と言つたことに気分が悪かったのですが、タバコの約束は守りました。五〇年前のことですが月日は流れ、今でも仮壇の前に座ると堺港のオーストラリア兵のことを思い出します。またオーストラリア兵も、故国に帰つて日本の堺港駅のホースマンの友情を思い出してくれているでしょう。

## 四、つきまとう特高

尼崎杭瀬の国道、電車道の横の山下組運送店は、あちらこちらの大中小工場で機械の据付解体の仕事をしていました。新しい旋盤、フライスバン、ボールバン、大型シカルバン等、武庫川の久保田鉄工所大阪本社工場、栗本鐵工所本社のある大阪泉尾などから仕事を頼まれております。山下組の主人

は大変苦労人で、私を大切にしてくれました。仕事ができると見ているのです。京都七条署の特高課が「田中は危険人物だから使用するな」と山下組の主人に言いました。しかし一ヶ月あまり雇つてくれたのです。あまり七条署のポリスマンがうるさいので、最後は解雇されました。

私は、仕事にあぶれると生活ができません。それで、大阪の昌運工作所に入つている中村組という運送店に行つてはどうか、と知人に言わせて、大阪市東淀川三国町三国大橋の角にある中村組にいきました。

昌運工作所といふのは、大阪船場の木綿問屋田所商事KKの資本で工員が四五〇人、日本では東京鉄工所、名古屋の大隈鉄工につぐ大きな鉄工所です。そこに入り込んでいる中村組ですから仕事がありました。

旋盤は八尺物、六尺物、四尺物、また小型のものがありましたが、これの運搬の仕事です。

私は朝、京都を五時一〇分の始発に乗り換えて三国で下車、五分歩いて中村組に到着、それから仕事を取りかかります。ここには京都で働いていた知人がおりま

したので助かりました。

馬車を準備して工場に行き、天

井クレーンで荷物を積み込むのです。大阪南港、堺港などへ運びま

す。日本通運の組の人が指図をし

ます。日通の頭は「よく慣れているね」と言つて感心しています。

通組は人夫も不足しているので、例のオーストラリアの捕虜を使うのだと言い、私によく教えてやつてくれと言いました。

ある朝、一番電車に乗り、前から三番目の箱に乗りました。毎度

同じ東七条のイワシ屋が三、四〇人ほど乗つており、「おっさん、し

ばらく会わなんだが元気で結構やなあ」と言つてくれます。

入口にオーバーを頭からかぶつて寝ている一人の紳士がおりま

す。「こいつ、うるさいやつだな」と思つておりました。私は注意を

しておりますと、汽車は梅田駅に近づきました。

私は「もしもし大阪駅です。目

をさましなさい」と起こしました。

た。彼はオーバーを取りました。

私は「もしもし大阪駅です。目

をさましなさい」と起こしました。

私は一生懸命働きました。大阪

の難波駅についたのは一〇時、日

通の組頭は「今日は早いね。京都

から通うのは大変だな。今日はB

29の爆撃があるというラジオの放送があつた。早う積み荷をおろし

「僕の行先を見に行くんですか」

「その通りだ田中君、京都をはなれたら七条署に届けることになります」

「来ているのはけしからん。検束に来ているのだ。だまつて大阪に働きすべきだが、許してやる。お前を尾行しているのだ」

「そんなことまでせんでもよいやないか」

「いや、検束はせんが行く先をはつきり書いてくれ。働き先までいっしょに行く案内しろ」

二人は三国駅で下車、中村組に行き、ポリスは主人に出会いました。私は馬屋に行き、仕事の段取りをして工場に行き、馬車に六尺旋盤を積み込んで八時に門を出たのです。

七条署のポリスは主人にいろいろ話をしたようでしたが、主人も番頭さんも「うちは心配してもらつたらしいのです」とのことでした。

私は五〇〇人ほどの人が働いています。関係はありません。働いてもうところではありません。工場に

は五〇〇人ほどの人が働いています。関係はありません。働いても

らつたらよいのです」とのことでした。

私は一生懸命働きました。大阪

の難波駅についたのは一〇時、日

通の組頭は「今日は早いね。京都

から通うのは大変だな。今日はB

29の爆撃があるというラジオの放送があつた。早う積み荷をおろし

てもらうので、オーストラリア兵一人ほど手助けに来てもらう」というのです。

「ハロー・オーストレイリアン」私は仕事に慣れているから、あざやかです。

「ユー・アー・ベリー・ナイス、ベリー・ナイス」

「ホースマン・スピーカス・イングリッシュ・ウエル」

「アイ・アム・ア・セイラーマン・オブ・ジャパン・O S K カンパニー、オーストラリア、シドニー、メルボルンによく行つたことがあります」と言います。

「ベリー・ナイス、ベリー・ナイス」私は持ちあわせのシガレットを七、八本彼らにやりました。

「ギブ・ミー、サンキュー、サンキュー」

太平洋戦争一年目の日本本土での捕虜生活はあわれなものでした。帰り道、東淀川区十三大橋にかかる時、空襲警報がなりました。急いで橋を渡つて三国の道路を小走りにズンズン歩いて行きましたが、アメリカのB29重爆撃機があちらこちらに編隊を組み、爆撃をしました。ズドン、ズドンと大きな音がして、こちらは馬を引いているから急いで工場に帰りました

た。中村組の主人や番頭さんは、外出で私を待っていてくれ、「えらい爆撃やつた、心配していました、ご苦労さんやつた」と、ねぎらつてくれました。

「明日は港町駅に浜出しが二回あるからたのみます」とのこと、私は夕方京都に帰りました。

明日、朝五時一〇分、京都から大阪駅、阪急で三国駅でおり、昌運工作所に行き、馬車を工場内に入れ、六尺旋盤一台を乗せ、部品を一個積み込んで八時に出門、店の番頭さんに「タバコが切れたので、バットを一個貸してください」と頼むと、早速ボケットから一級品の「敷島二〇本入り」をくれました。港町の捕虜の兵士に約束してあるので、私は大変嬉しく思いました。

朝一〇時半、いつもの港町駅に入場、プラットに馬車をつける。今日の捕虜兵士は、一番目の汽車の貨物を引きおろしています。日通の組頭は、「今日の兵隊は同じ部隊の兵士だ、教えてやつてくれ、たのむ」と親方。

「OK」金ゴロを入れ、ホームに出しま

訂正
会員の小田切明徳氏の村島昭男氏あてご指摘にもづき、前号「北牧孝三と郷里『甘南備』」のうち次のように訂正します。
除。 「京都の郵便局に勤め」削除。
「八、三歳で他界したのは一九八八年」傍点部分を「八九歳」「一九八九」に改める。

TEL FAX ○七五—五六一一七四八五	会および会報については、左記へご連絡ください。 〔事務局〕 <b>〒六〇五一〇九五三</b> 京都市東山区今熊野 南日吉町三九 奥村和郎
----------------------------	--

中村組の主人や番頭さんは、外出で私を待っていてくれ、「えらい爆撃やつた、心配していました、ご苦労さんやつた」と、ねぎらつてくれました。

「ハロー、ホースマン（馬方）、ベリー・ナイス、ベリー・ナイス」

編集後記

空前の不況と金融危機のただ中で、日米ガイドライン問題があり、一九三〇年代の初期を思ふります。「いちりんの花」は、ご遺族の諒解を得て、同題の追悼文集から抄録させていただきました。

市井にあつた老婦人の青春期からの一すじの思いと歩みが、今を生きるわれわれの胸をう칩니다。

志摩肇氏の投稿は戦争末期中の学校の軍国主義的な実態を物語っています。同じ時期を「思想

前歴」のある労働者として生き抜かれた田中豊蔵氏の回想も、しだいに終りに近づきました。

社会も変調ですが、今年は気候もいたつて不順のようです。会員の皆様方のご自愛を祈ります。

私は兵士と握手して喜びました。正午を告げる警報がけたましく鳴つて、私はやれやれ約束をはたせたと思い、嬉しく思いました。兵士もシキシマを喫んで恩を思ひ出します。

「オーライ・ジャパニーズ・デラックス・シガレット・シキシマ」「サンキュー・サンキュー・サンキュー」

志摩肇氏の投稿は戦争末期中の学校の軍国主義的な実態を物語っています。同じ時期を「思想前歴」のある労働者として生き抜かれた田中豊蔵氏の回想も、しだいに終りに近づきました。社会も変調ですが、今年は気候もいたつて不順のようです。会員の皆様方のご自愛を祈ります。